

第四節 衛生学講座の開設

一八三〇年より一八三六年に至る間にヨーロッパに流行したコレラに対し、公衆衛生設備が促進されるようになったのはイギリスに始まるのであるが、イギリスでは一八四八年に「公衆衛生法」が公布され、中央衛生局及び地方衛生局が設けられた。ロンドンのスミスの他、アーノット、サイモン等の努力で次第に衛生学は発達したが、ボンベも既に帰朝直前に衛生学の講義を行った。その後間もなく、一八六〇年(万延元年)にはネトレー軍医学校にパークスが、又、一八六六年(慶応二年)、ミューヘン大学にはペッテンコーフェルがそれぞれ衛生学の講座を開いた。本校においても、明治十九年には既に吉田健康が衛生学を兼任講座として教授していた。その後、第五高等学校校医学部となつてからも、講座としては裁判医学と共に、衛生学及び裁判医学の講座があり、衛生学理論は第三年級全期に亘つて教授され、関成治(明治

二十六年以後は久保姓)が兼担した。そして、授業時間の変更はあつても、常に法医学と共に講義が続けられていたのであるが、医制の発展と呼応して衛生学の発達をみたため、法医学とは全く別に講義された。そして大正十三年四月上旬、専任の衛生学教授勝矢俊一が迎えられ、細菌学教室の一部に教室を設け、七月末、細菌学教室裏に木造二階建衛生学教室(延二百坪)、木造平家建動物舎(約三十坪)、小使室(十坪)、便所、渡廊下等(約五十坪)及び煉瓦造平家建ベスト研究室(約十五坪)等が竣工した。八月末、研究室の整備進行と共に圖書並びに薬品、器械類の搬入を終り、九月上旬より研究に着手したが、十一月には教室の増築が竣工し、完全に独立するに至つた。